

**近畿地方交通審議会  
近畿船員部会議事録**

**第190回**

**令和6年7月24日**

日 時 令和6年7月26日（水） 16時30分から

場 所 近畿運輸局 会議室（船員部会室）

出席者 公益委員 横見委員、定岡委員、三輪委員、  
安達委員

労働者委員 浦委員、佐藤委員、坂上委員

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員

運 輸 局 岩佐海事振興部長、三浦海事振興部次長、  
土本船員労政課長、矢野船員労政課専門官、  
衣川船員労働環境・海技資格課長

議題1．管内の雇用等の状況について

議題2．その他

## 議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第190回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第189回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

土本船員労政課長：

それでは「令和6年6月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

### 1. 職業紹介状況

#### ①求人関係

新規求人数は、59人（前月比－19人、24.4%の増、前年同月比：＋1人、1.7%の増）となっています。

月間有効求人数は、171人（前月比＋4人、2.4%の増、前年同月比：－86人、33.5%の減）となっています。

#### ②求職関係

新規求職者数は、11人（前月比－1人、8.3%の減、前年同月比：－3人、21.4%の減）となっています。

月間有効求職者数は、31人（前月比－6人、16.2%の減、前年同月比－8人、20.5%の減）となっています。

### ③成立状況

当月の成立数は、6人（前月比：+5人、500.0%の増、前年同月比：+2人、50.0%の減）となっています。

### ④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員1人、機関部職員0人、甲板部部員2人、機関部部員0人、事務部部員3人となっています。

年齢別については、10歳代0人、20歳代0人、30歳代2人、40歳代0人、50歳代3人、60歳代1人、70歳代0人となっています。

## 2. 新規求人・求職者の取扱実績

### ①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員48人（甲板部36人、機関部12人、無線部0人、事務部0人）、部員11人（甲板部7人、機関部1人、無線部0人、事務部3人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員8人（甲板部4人、機関部4人、無線部0人、事務部0人）、部員3人（甲板部1人、機関部0人、無線部0人、事務部2人）となっています。

### ②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が0人、定年退職0人、雇用期間満了0人、本人の申し出7人、自己の健康0人、倒産0人、就労中2人、不明2人となっています。

### ③新規求職者の年齢別

30歳未満3人、30歳代2人、40歳代3人、50歳代0人、60歳以上3人となっています。50歳以上は3人で占める割合は27.3%、30歳未満は3人で占める割合は27.3%です。

## 3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は7人で、基本手当の支払実人数は0人、給付件数は0件となっています。給付金額は0円です。前月は0人、給付は0円でした。

それから、高年齢求職者給付金が0件0円、再就職手当が1件528,360円、就業促進定着手当が0件0円よって、当月支給額計は、0円となります。

#### 4. 月間有効求人倍率の推移

6月の近畿船員は5.52倍で、前月比+1.01ポイント、前年同月比、-1.07ポイントとなっています。

#### 5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は171人で、このうち、新規求人者数は59人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は5人、他局成立は0名でございました。求人の取り消しは60人で、理由の内訳は有効期限切れ60人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ0人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は31人で、前月との差は-6人でした。

当局の紹介による求職側の成立は2人、他局成立は1人でした。求職の取り消しは10人で、理由の内訳は期限切れ7人、自己応募・縁故により採用2人、自己都合により取り下げ1人、その他0人となっています。

#### 6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①5月の全国の月間有効求人数は、3,038人で、前月比38人減の98.8%、前年同月比は120.0%となり、61人増加しています。

② 5月の全国の月間有効求職数は、681人で、前月比35人減の95.1%、前年同月比76.5%となり、209人減少しています。

③ 5月の全国の成立数は、36人で、前月比15人減の70.6%、前年同月比では67.9%となり、17人減少しています。

④ 5月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により4.91倍となっています。5月の全国陸上は季節調整値により1.24倍となっています。

以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ご説明ありがとうございます。

資料1、2、3について何かご質問等ございますでしょうか。

三輪委員：

資料2の7ページ、月間有効求職者数の欄で、司厨員、司厨長、司厨手とありますが、司厨部の乗組み規準はどのようになっているのですか？

三浦海事振興部次長：

求職者が求職票に記入いただいている希望役職となります。司厨部員のそれぞれの職種については明確な違いはなく、船に乗っている司厨部の人数によって決めている役職名となります。遠洋・近海区域を航行する総トン数1000トン以上の船舶に乗り組んで調理をする場合は船舶料理士の資格が必要になります。

衣川船員労働環境・海技資格課長：

司厨部については甲板、機関と違って何人乗せるかの定めはなく、船の規模、乗船人数によって適正な人数を乗せることとなっています。一方で、必要な資格としては、遠洋・近海を航行区域とし、総トン数が700トン以上の船舶については、食料表による支給が必要で、1000トン以上の船舶には船舶料理士の資格を持ったものを乗り込ませる必要はあり、それ以外の沿

海区域以遠で船員の食料を船内で作る司厨部員等については、調理教育修了等証明書を持つものを乗り込ませる必要があります。

横見部会長：

資料2の7ページ、月間有効求職者数の欄で、成立情報のところの受講指示とは、何をされているのでしょうか。

土本船員労政課長：

陸上の雇用保険の受給資格のある船員未経験の方が、海技士資格取得のため、海技学院等で開催される6級海技士（航海）短期養成講習を受講する際に、運輸局長が受講指示書を発行するものです。指示書の発行を受けた場合、職業訓練の受講期間中は基本手当を受給することができます。

横見部会長：

同じ未経験者でも受講指示の記載の無い方は希望していないということですか。

土本船員労政課長：

受講を希望していない方や、雇用保険の受給資格がない方も受講指示は出せません。

横見部会長：

ありがとうございます。

他に何かございますでしょうか。

無いようですので、それでは、次に議題2の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

三浦海事振興部次長：

資料4を説明申し上げます。

まず、令和6年5月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比 98%となっております。

前年同月は広島サミットによる入出港制限や、一部で月後半に台風の発生による輸送障害が見られたが、おしなべて輸送需要の薄さもあり自動車を除けば低調であったようです。

貨物船は鉄鋼、紙・パルプ、雑貨が増加となった一方で、原料、燃料（石炭、コークス）、自動車、セメントは減少のようです。

油送船は白油、高温液体は増加し、黒油、ケミカル、高圧液化、耐腐食は減少となったようです。

5月の貨物船の輸送量は、前年同月比 99%、前月比 95%となっております。

鉄鋼は 前年同月比 108%であり、前年は需要が鈍く低水準で推移していたのに比較して輸送の増加が見られたようです。原料は前年同月比 94%。石灰石は前年比減少した一方で、スラグ、金属鉱等は増加も見られたが前月ほどの力強さはなく減少となったようです。

燃料は前年同月比 98%であり、今月も前年同月は石炭火力発電所の定期修理があり、石炭は反動増となった。一方でコークスは受け入れ先の定期修理により減少が見られたため、燃料全体としては微減となったようです。

紙・パルプは前年同月比 102%。紙並びにパルプは増加が見られたが、木材（バイオマス燃料）については受け入れ先の定期修理により減少となったが、前年が低水準であったため微増の結果となったようです。雑貨は前年同月比 103%。雑貨を構成する一般雑貨、コンテナ、塩は全て増加となっておりますが、前年同月が低水準であったことによる反動増のようです。

自動車は前年同月比 94%。昨年の年末から継続していた一部メーカーの不正問題に伴う工場稼働停止は解消が見られたため輸送も回復しつつあるようです。



セメントは前年同月比 95%で、需要が盛り上がり減少しているようです。（一部でセメント工場の休転により停船した船が見られたようです。）

続きまして、油送船の輸送量ですが、前年同月比 98%で、前月比 96%となっています。

黒油は前年同月比 93%で、今月も一部で製油所の装置不具合等による転送需要が発生したほか、トラブルによる停船で稼働率の低下が見られたようです。

白油は前年同月比 101%。ジェット燃料油の輸送は好調となっているようです。

ケミカルは前年同月比 84%であり、販売不振のほか、貨物の減少から一部の船舶では白油の輸送を担う状況が見られているようです。

それでは3ページ以降、貨物ごとの状況です。3月の欄と対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼ですが、	前年同月比で	108.2%	、	前月比では	100.4%
原料は、	前年同月比で	100.6%	、	前月比では	92.6%
燃料は、	前年同月比で	97.9%	、	前月比では	87.1%
紙・パルプは、	前年同月比で	101.8%	、	前月比では	83.2%
雑貨は、	前年同月比で	103.3%	、	前月比では	90.8%
自動車は、	前年同月比で	94.3%	、	前月比では	93.6%
セメントは、	前年同月比で	95.5%	、	前月比では	100.9%

貨物船全体の輸送量は、1,525万5千トンで前年同月比で 100.1%、前月比では 94.6%となっています。

黒油（こくゆ）は、	前年同月比で	92.5%	、	前月比では	95.5%
白油（はくゆ）は、	前年同月比で	101.4%	、	前月比では	96.9%
ケミカルは、	前年同月比で	83.7%	、	前月比では	98.6%

一般タンカーの輸送量は、728万1千トンで  
前年同月比で 97.5%、前月比では 96.7%となっています。

続きまして、

高圧液化は、前年同月比で 98.0%、前月比では 89.7%

高温液体は、前年同月比で 135.0%、前月比では 95.3%

耐腐食は、前年同月比で 97.9%、前月比では 89.5%

特タン船の輸送量は、88万9千トンで

前年同月比で 100.5%、前月比では 90.1%となっており、

全てのタンカーの合計は、817万トンで

前年同月比で 97.8%、前月比では 95.9%となっています。

次に資料5、令和6年5月における長距離フェリーの輸送実績でございます。

5月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。

まずは「トラック」ですが、

北海道方面では、10,281台で、前月比 97.3%、前年同月比  
で 99.0%

北九州の新門司港では、32,374台で、前月比 93.9%、前年  
同月比で 109.3%

中九州の別府・大分方面では、10,299台で、前月比 93.1%、  
前年同月比で 110.0%

南九州の宮崎・志布志方面では、13,231台で、前月比 98.  
0%、前年同月比で 106.9%

となっています。

次のページの「旅客」では、

北海道方面では、13,343人で、前月比 133.8%、前年同月比  
で 85.4%

北九州の新門司港では、83,587人で、前月比104.5%、前年同月比で105.8%

中九州の別府・大分方面では、35,937人で、前月比107.2%、前年同月比で98.6%

南九州の宮崎・志布志方面では、28,461人で、前月比108.9%、前年同月比で103.3%  
となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、

北海道方面では、5,345台で、前月比125.3%、前年同月比で97.5%

北九州の新門司港では、26,579台で、前月比103.2%、前年同月比で101.4%

中九州の別府・大分方面では、5,869台で、前月比111.4%、前年同月比で91.3%

南九州の宮崎・志布志方面では、8,724台で、前月比110.6%、前年同月比で102.5%となっています。

5月は、トラックの輸送実績は、前年同月においては、北海道航路が若干少なめで、九州航路は増加傾向に感じられます。

旅客の輸送実績は、前年同月より北海道航路と中九州航路が若干少なめですが、平成30年同月に比べると多いようです。

乗用車の輸送実績は、北海道・中九州航路は、平成30年同月に比べて多くなっていますが、前年同月より若干少なめのようです。

北九州航路は、引き続き増加傾向にあります。南九州航路は、ほぼ横ばいになっている状況が見受けられます。

私からの説明は以上でございます。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、資料4、5について何かご質問等ございますでしょうか。

佐藤委員：

前回の船員部会でも話のあったジェット燃料の供給不足について、官民で対策会議が行われていますが、担当船舶でも黒油からジェット燃料へ切り替えできませんかという問い合わせがあると聞いています。こういった状況のなかで、官民対策会議での内容は公表されておりましたが、船員に関わる話が出てくるのであれば船員部会の場で情報提供をお願いします。

三浦海事振興部次長：

ケミカル船をジェット燃料輸送へ転換という新聞記事もありましたので、タンカーが足りないという流れにはなっているかと思われま。また情報がありましたら提供させていただきます。

磯合委員：

私見となるのですが、新聞などで航空燃料を運ぶ船が足りないと報道されていますが、航空燃料を運んでいるのは白油タンカーで、内航タンカー業界では今の時期は灯油の輸送が激減する閑散期であり、冬場の灯油の輸送が活発となる繁忙期では白油タンカーは足りない状況となるのが通例で、今の時期で船が足りないというのは今までの経験上考えにくいと思います。近くに施設がなければ遠くからもってくることになり、船が足りないというよりは輸送距離が伸びることで、毎日運んでいたものが2日に1回になっていることは考えられます。これは、高度化法により石油会社に化石燃料以外の導入を求めており、その結果、航空燃料を精製する製油所が少なくなっているということはあまりニュースにならず、船が足りないということが話題として報じられているように感じます。今の時期は、船が足りないとは考えにくいです。

横見部会長：

ありがとうございます。

他に何かございますでしょうか。

横見部会長：

それでは次に、事務局より報告事項がありますので、よろしくお願ひします。

- ・今年度の近畿運輸局における最低賃金の諮問について

〔 岩佐海事振興部長（説明） 〕

- ・出前講座・職業講座、海技大学校見学会の実施について

〔 土本船員労政課長（説明） 〕

横見部会長：

ありがとうございました。今の件について、何か質問ございますか。

浦委員：

昔は、大学や高専は外航、海技教育機構が内航、水産高校が水産といった棲み分けがあつて、今はそういったものも無くなつてゐるようですが、業界内での学歴による軋轢みたいなものはあるのでしょうか。

礮合委員：

今は学歴よりも海技免状や乗船時の能力を重要視して評価する会社が多くなつてきていると思ひます。

開委員：

フェリーでも水産高校出身者も増えてゐますし、それによる軋轢はないよゝに思ひます。

土屋委員：

水産高校、海上技術学校でも人が集まらなくなつてゐると聞いてゐます。

一方、大手の船社もこれまでの高専以上の求人から範囲を広げているのか、個人船主との人の取り合いになることもあるようです。

浦委員：

ありがとうございました。

土屋委員：

各学校の入学者数等について運輸局でデータをお持ちですか。

三浦海事振興部次長：

本省の船員部会で全国の教育機関についての過去数年分のデータが6月に出ておりますので、提供させていただきます。

横見部会長：

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見情報等ございましたらご発言をいただきたいと思えます。労働者委員の方からいかがでしょう。

佐藤委員：

7月23日から25日の3日間、第107次海員FOC・POCキャンペーンを行っており、日本各地の港でFOC船の査察を行っております。大阪港でもコンテナ船、貨物船を中心に訪船活動を行っております。その中で、興徳海運所有船舶については、会社の指示による査察乗船を拒否しておりまして、団結権を侵害しているとしてPSC出動要請を船員労政課宛に提出するとともに、会社に対しては、無協約であることからITF協約の締結をすべく警告文を提出しております。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、使用者委員の方からいかがでしょうか。

横見部会長：

そのほか、公益委員の方からいかがでしょうか。  
よろしいでしょうか。

横見部会長：

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は8月28日（水）16時00分からとなっておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

（配付資料）

資料1．令和6年6月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料2．令和6年6月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料3．令和6年5月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料4．内航輸送実績状況（令和6年5月分まで）

資料5．長距離フェリー輸送実績の推移（令和6年5月まで）

資料6．出前講座・職業講座、海技大学校見学会の実施について